

目指す学校像	「笑顔輝く 楽しい学校」 ～ 「チーム与野南」 + 3つのC (Chance・Challenge・Change) = 楽校 ～
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現 2 豊かな心の推進と安心・安全な教育環境整備 3 コミュニティ・スクールによる連携・協働体制の構築 4 「チーム与野南」を合言葉に協働共励の組織づくり
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和5年1月19日
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国を上回った。 ○市の学習状況調査において、学習に関する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ理科で高く、国語・算数で、やや低い学年もある。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の全国平均と比べ、国語「書くこと」・算数「変化と関係、データの活用」領域では、他領域ほどの優位差がない。 ○国語・算数への関心を高めながら、児童が国語や算数を学習することの意義や達成感、充実感を味わえるようにすることが課題である。	・主体的・対話的で深い学びの実現 「学力向上に関する取組」	①5・6年生の教科担任制と3・4年生の学年内交換授業を展開する。 ②ドリルパークやスタディサプリなどのICTを活用した学習活動を展開する。 ③「STEAMS TIME」で、探究的な学びを行う単元を創り出し実施する。(外部機関と連携したプログラミング学習等の実施) ④教員と児童が共に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指す「STEAMS TIME」を展開する。	①②児童・保護者アンケートにおいて、「分かりやすく教えてくれる」「分かりやすいよう工夫して指導」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③④教員アンケートにおいて、「探究的な学びに向け授業改善をすることができた」と回答する教員の割合が80%以上となったか。	①②児童・保護者アンケートにおいて、「分かりやすく教えてくれる」「分かりやすいよう工夫して指導」の肯定的な回答割合 →児童98%。保護者100%。 ③④教員アンケートにおいて、「探究的な学びに向け授業改善をすることができた」と回答した教員の割合 →95%。 企業と連携した「STEAMS TIME」単元を作成・実施。	A	○R4年度教科担任制モデル校の実践を踏まえR5年度完全実施へ円滑移行。 ○本年度作成・実施した「STEAMS TIME」単元の修正・再構成。	○肯定的回答が多く良い傾向である。タブレット端末の急速な普及に伴い、教職員が活用できるよう研修しなければならないが、その研修の成果が表れているのではないか。教科担任制については、今後も小中間の交流を継続し連携できるとよい。 ○企業と連携した「STEAMS TIME」は大変興味深く、有意義な活動だと思う。今後、継続できることが望ましいが、予算面が課題である。地域としても、できるところは協力したい。
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「人が困っているときには、進んで助けている」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均を上回った。 ○昨年度、けがで保健室に来室する児童、医療機関を受診した児童が多い傾向があった。 〈課題〉 ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制を継続していくことが課題である。 ○児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・豊かな心の教育の推進 「安心・安全に関する取組」 ・安心・安全な教育環境の整備 「安心・安全に関する取組」	①代表委員会を中心とした「あいさつ運動」と異学年集団による交流活動を展開する。 ②道徳教育・人権教育を推進するとともに、児童の善行を全校放送で紹介する。	①児童・保護者アンケートにおいて、「あいさつ」に関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②児童・保護者アンケートにおいて、「よさを見つけ認め伸ばす指導」に関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①児童・保護者アンケートにおいて、「あいさつ」に関連する項目の肯定的な回答割合 →児童93%。保護者87%。 学校保健委員会にて怪我対策を児童が発表 ②児童・保護者アンケートにおいて、「よさを見つけ認め伸ばす指導」に関連する項目の肯定的な回答割合 →児童93%。保護者98%。	A	○PTA・保護者・自治会等と連携協力した「あいさつ運動」の推進と協力依頼。 ○児童相互の豊かな人間関係構築に向け、教科・特別活動における異学年交流の場の設定。	○児童会あいさつ運動と連動して地域の方にも通学路等で挨拶していただく取組を始め定着しつつある。学校評価「あいさつ」の項目について、児童と保護者の回答に若干ズレがあるため、保護者・地域と連携協力して取り組んでいきたい。 ○異学年交流は、小規模校の良さでもある。本校独自の活動をぜひ継続してほしい。
3	〈現状〉 ○昨年度、本校学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、熟議を積み重ね、児童を地域全体で育てていくために「つながる笑顔」をキャッチフレーズとし共有した。 〈課題〉 ○今年度は、昨年度の学校運営協議会での協議を深化させ目指す児童の姿の具現化を進め、家庭・地域等に広め共有できるようにする。また、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組に向けた一歩を踏み出す。	・コミュニティ・スクールによる連携・協働体制の構築 「開かれた学校づくりに関する取組」	①本校HP内に、学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭・地域と共有できるようにする。 ②「与野南小コミュニティ・スクール構想図」「与野南小コミュニティ・スクール概要図」を策定する。 ③児童の発達や学びの連続性・多様性を理解し、与野南中学校教員による教科指導や学校行事の連携・協力事業を展開する。	①②保護者・教職員アンケートで、「学校運営に関して、学校・保護者・地域が連携・協働して、子どもたちの成長を支えている」と回答する割合が80%以上となったか。 ③「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消に向けた、保幼小連携及び小・中一貫教育の新たな取組を実施したか。	①②保護者・教職員アンケートで、「学校運営に関して、学校・保護者・地域が連携・協働して、子どもたちの成長を支えている」と回答した割合 →保護者98%。教職員100%。 ③「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消に向けた、保幼小連携及び小・中一貫教育の新たな取組。 →与野南中学校区合同引渡し訓練・校内音楽会中学生発表・中学生による読み聞かせ活動実施。	A	○本校学校運営協議会を主体とした「あいさつ運動」の定着・推進。 ○「アプローチャリキュラム・スタートカリキュラム」推進に向けた保幼小間の授業参観	○中学生による小学校での読み聞かせは今年度実施予定。今後、保幼小の連携として、校長の幼稚園訪問、園児の校庭使用、小学生による幼稚園での読み聞かせ等を検討したい。
4	〈現状〉 ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○T・Tや合同授業により、多面的な児童理解や多様な指導方法を学び合うことができた。 〈課題〉 ○ICTの活用については、誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○担当外の教科について、教材研究をしたり、よい授業のイメージを共有したりすることが課題である。	・「チーム与野南」を合言葉に協働共励の組織づくり 「教職員の資質向上に関する取組」	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、外部指導者を招聘した校内研修を実施する。 ②ブロックに1人エバンジェリストを配置し、ICTを活用した授業実践等について学ぶ機会を月1回設ける。	①各教員が、授業改善の目標を基に指導者を招いた授業公開を年間1人1回実施する。 ②教員アンケートで、「ICT機器の活用を意識した授業を行っている。」と回答する教員の割合が、90%以上となったか。	①各教員が、授業改善の目標を基に指導者を招いた授業公開を年間1人1回実施。 →指導者を招聘した授業公開年間1人1回実施。外部指導者を招聘した校内研究授業会年3回実施。 ②教員アンケートで、「ICT機器の活用を意識した授業を行っている。」と回答した教員割合 →100%。	A	○ICT機器(プロジェクター含む)の効果的な活用方法の共有。 ○生徒指導委員会・教育相談部会を活用した、教育相談的手法や特別支援教育に関する指導力の向上。	○教職員の資質能力について、誰かが突出しているのではなく、全教職員がバランスよく安定している。外部指導者を招聘した研修は、資質能力の向上につながる、貴重な機会である。 ○ICT機器の活用や特別支援、教育相談的手法に関する研修も計画的に実施できるとよい。